

令和6年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

文化芸術課

1 施設の概要等

施設名	広島県立美術館		広島県縮景園
所在地	広島市中区上幟町 2-22		広島市中区上幟町 2-11
設置目的	【美術館】美術に関する県民の知識及び教養の向上に資する。 【縮景園】名勝庭園の保存と活用を図り、県民の福祉の増進に資する。		
施設・設備	【美術館】展示室（常設、企画）、講堂（202席）、県民ギャラリー、駐車場等 【縮景園】池泉回遊式庭園、清風館、悠々亭、明月亭、売店、管理棟、駐車場等		
指定管理者	5期目	R4. 4. 1～R9. 3. 31	イズミテクノ・広島緑地建設・広田造園共同事業体
	4期目	H29. 4. 1～R4. 3. 31	イズミテクノ・広島緑地建設・広田造園共同事業体
	3期目	H24. 4. 1～H29. 3. 31	【美術館】乃村工藝社・イズミテクノ美術館活性化共同事業体 【縮景園】広島緑地建設・広田造園・イズミテクノ共同事業体
	2期目	H23. 4. 1～H24. 3. 31	(株)イズミテクノ
	1期目	H20. 4. 1～H23. 3. 31	(株)イズミテクノ

2 施設利用状況

利用状況	年 度		目標値 [事業計画]	入場者数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	5期	R6	808,000 人	800,788 人	191,354 人	△7,212 人(99.1%)
		R5	796,500 人	609,434 人	176,072 人	△187,066 人(76.5%)
		R4	785,000 人	433,362 人	△108,674 人	△351,638 人(55.2%)
	4期平均 H29～R3		771,000 人	542,036 人	△153,481 人	△228,964 人(70.3%)
	3期平均 H24～H28		727,000 人	695,517 人	463,305 人	△31,483 人(95.7%)
	2期平均 H23		350,000 人	232,212 人	△29,693 人	△117,788 人(66.3%)
	1期平均 H20～H22		330,000 人	261,905 人	4,181 人	△68,095 人(79.4%)
	(導入前) H19		—	257,724 人	—	—
増減理由	美術館 LED 照明工事（約3ヶ月）に伴う所蔵作品展休止により目標達成には至らなかったが、縮景園の外国人入場者の増や美術館におけるジブリ展開催による入場者増により、前年度より入場者数は大幅に増加した。					

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	来館者・来園者アンケート	美術館来館者（所蔵展、特別展、カフェ等） 縮景園来園者（売店）
	【主な意見】	【その対応状況】
	水銀灯が切れて暗い箇所がある。	全館の LED 工事を実施し照度を上げた。

4 県の業務点検等の状況

項 目		実績	備 考
報告書	年度	○	半期・通期業務報告（収支報告・事業の実施状況等）
	月報	○	月次業務報告（利用状況・管理業務内容等）
	日報（必要随時）	○	業務報告（利用状況・日常業務内容等）
管理運営会議（月１回・現地）		【特記事項等】 ・夏の特別展でオンライン事前予約制を実施 【指定管理者の意見】 ・猛暑時にお客様に館外まで並んで頂く事が無く、熱中症予防や待機時間の減少に繋がった。 ・日時指定のチケットを販売することで、展示室内の混雑が一定程度解消できた。 【県の対応】 美術館と連携を図り、特別展を円滑に実施した。	
現地調査（３月に実施）			

5 県委託料の状況

(単位：千円)

県委託料の状況				料金収入の状況					
県委託料 (決算額)	年度		金額	対前年度増減	料金収入 (決算額)	年度		金額	対前年度増減
	5期	R6	295,261	707		5期	R6	47,638	7,158
		R5	294,554	△3,779			R5	40,480	3,705
		R4	298,333	29,684			R4	36,775	△1,791
	4期平均 H29～R3		268,649	58,093		4期平均 H29～R3		38,566	△76,769
	3期平均 H24～H28		210,556	△37,444		3期平均 H24～H28		115,335	48,948
	2期平均 H23		248,000	0		2期平均 H23		66,387	△2,500
	1期平均 H20～H22		248,000	72,460		1期平均 H20～H22		68,887	2,253
	(導入前) H19		175,540	—		(導入前) H19		66,634	—

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項 目		R6 決算額	R5 決算額	前年度差	主な増減理由等
委託事業	収入	県委託料	295,261	294,554	707
		料金収入 (※1)	47,638	40,480	7,158 入園・入館者の増
		その他収入	107,111	94,508	12,603 入園・入館者の増による物販等の増
		計(A)	450,010	429,542	20,468
	支出	人件費	41,815	38,556	3,259 人件費単価の増による
		光熱水費	105,330	96,303	9,027 入園・入館者の利用者増に伴う増
		設備等保守点検費	38,687	42,468	△3,781 美術館 LED 化による管球交換経費減
		清掃・警備費等	90,900	86,105	4,795 物価高騰に伴う増
		施設維持修繕費	33,961	32,133	1,828 修繕費の増
		事務局費	80,841	78,592	2,249 人件費単価の増による
		その他	97,406	89,981	7,425 入場者の増に伴う物販の仕入れ増
		計(B)	488,940	464,138	24,802
	収支①(A-B)		△38,930	△34,596	△4,334
自主事業 (※2)	収入(C)		14,242	10,894	3,348
	支出(D)		10,576	10,346	230
	収支②(C-D)		3,666	548	3,118
合計収支(①+②)		△35,264	△34,048	△1,216	

※1 利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。
指定管理者の自主的な経営努力を発揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体及び
指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画、主な取組、新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	縮景園と美術館の一層の連携強化を図るため、特別展に合わせた縮景園コラボ企画を実施するなど、共通券の販売促進強化を行った。	一体的運営による効果を生かした取り組みや新たな企画実施により県民サービスの向上を図っている。
	○業務の実施による、県民サービスの向上	縮景園に来園する外国人の増加に対応するため、受付人員の増員、ポケット※ ³ の導入等を行うことで、顧客サービスの向上に努めた。 夏の特別展（ジブリ展）では完全予約制を導入したことで、待機時間の減少、館内混雑の緩和及び熱中症対策につながった。	外国人来園者にも安心して入園いただくために有効的な取組を実施している。 特別展においては予約制の導入によって円滑に鑑賞ができる環境を提供している。
	○業務の実施による、施設の利用促進	特別展の開催に合わせ、ティールーム及び泉水亭でコラボメニューの企画提供、レストランでもオリジナルのメニューを提供し、利用促進に努めた。	特別展の開催内容に合わせた魅力的なコラボメニュー等の企画・実施により、利用促進を図るとともに、顧客サービスの向上に努めている。
	○施設の維持管理	県と協力し、美術館お客様用エレベーター改修工事、縮景園護岸園路補修等を行った。その他、日常点検業務や小修繕については、随時、適切に実施するとともに、緊急を要する修繕についても、早急に対応した。	必要な工事や修繕・部品交換について適切に対応している。また、日常点検により、施設不具合を早期に把握し対応する等、適切な運営管理が図られている。
管理の人的物的基礎	○組織体制の見直し	県と指定管理者で美術館と縮景園の一体的な管理及び相互利用の促進に向けた意見交換を月1回行い、課題や連係策等を共有している。	県と指定管理者が密に連携し、施設の課題等を共有し、適切な管理運営がなされている。
	○効率的な業務運営	人件費が高騰する中で、閑散期には人員を減らし、繁忙期には事務所スタッフで応援体制をとることで、収支の適正化に努めた。	人件費高騰や燃料高騰の影響下においても、収支の改善に向け適切に対応している。
	○収支の適正		
総括		アフターサミットやインバウンド効果で外国人が大幅に増加し、縮景園入園者数は過去最高、また夏の特別展でも20万人を超える入場があり、年間を通じて多くの利用があった。その中で混雑緩和対策や外国人に向けた取組を実施し、満足度の向上に努めた。	入場者数が増加する中で、日々変化する状況に対して臨機応変に対応し、外国人入場者やファミリー層等、誰もが満足できる環境を整えている。

※3 ポケット：携帯電話回線を利用したデータ通信端末の翻訳機

8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和7年度)	物価高騰や人件費高騰等における対策を検討し、収支の改善を図る。 県が実施する修繕が円滑に進むよう準備を進める。 縮景園入園者増加に対応するため、OTA※ ⁴ によるオンラインチケットの導入を検討し、準備を進める。	収支の適正化に向けた取組を進める必要がある。 利用者の快適性や利便性向上に向け、必要な修繕を計画的に実施する。 縮景園におけるOTAによるオンラインチケット販売の導入に向けて調整を進める。
中期的な対応	縮景園と美術館の連携を更に強化し、増加する外国人等に対するサービスや物販の提案に努め、施設の魅力を上げる。	引き続き指定管理者と随時情報を共有し、利用促進策について検討する。

※4 OTA：Online Travel Agencyの略でオンラインで旅行商品を予約できる仲介業者